

## Clinical and endoscopic features of undifferentiated gastric cancer in patients with severe atrophic gastritis

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-08-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岸野, 真衣子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.20780/00031916">https://doi.org/10.20780/00031916</a>

## 主論文の要旨

Clinical and endoscopic features of undifferentiated gastric cancer  
in patients with severe atrophic gastritis

(高度の萎縮性胃炎に発生した未分化型早期胃癌の臨床的検討)

東京女子医科大消化器内科学

(指導:徳重克年教授)

岸野真衣子

Internal Medicine Vol.55, No. 8, 2016, 857~862 (2016年4月15日号)

### 【要旨】

早期胃癌の内視鏡診断において、背景胃粘膜に萎縮性変化がある場合の組織型は分化型癌、萎縮性変化がない場合は未分化型癌と考えることが通則である。しかし、日常診療では高度萎縮性胃炎の中に発生した未分化型癌を経験し、その発見、診断に苦慮することも多い。今回、未分化型癌の診断能向上に寄与することを目的とし、当院で切除治療を行い進行度分類 Stage IA と診断した早期胃癌 501 例（未分化型癌 151 例、分化型癌 350 例）を対象として、萎縮性胃炎の程度別に各組織型の内視鏡所見、組織学的所見を比較検討した。その結果、高度萎縮性胃炎を有する症例では 251 例中 29 例（11.6%）が未分化型癌であった。これらは分化型癌に比し、やや腫瘍径が大きく、粘膜下層浸潤や脈管侵襲のある状態で発見、診断される病変が多かった。高度萎縮性胃炎に発生した未分化型癌の早期発見が難しい可能性が示唆された。

内視鏡検査による胃癌の早期発見、診断のためには萎縮性胃炎の評価が重要である。高度萎縮性胃炎の中にも未分化型癌が発生すること、その内視鏡像は多彩で発見が難しいことを認識し、検査を行う必要がある。